

こどもニュース&スポーツ

香川のこどもを応援します

NEWS & SPORTS
FOR KIDS

身近にある海 ずっと大切に

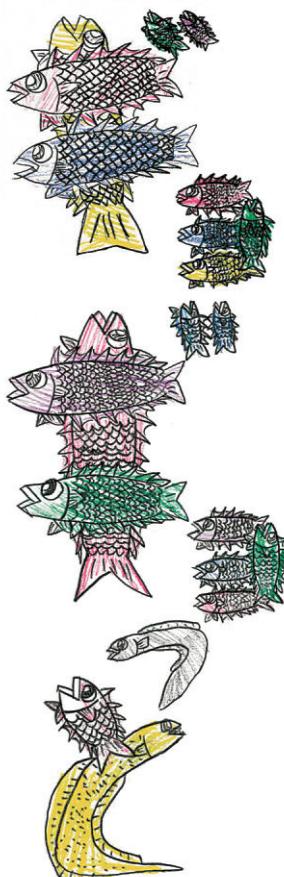
丸亀・本島で児童20人が体験学習

子どもたちが海の環境保護について学び、自分たちができる取り組みについて考える体験イベント「かがわ離島レンジャー 未来の海を守れ！」が7月29~31日に丸亀市の本島などで行われました。日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環。離島レンジャー隊員に選ばれた県内の小学5、6年生計20人が瀬戸内海の漁獲量が減っている現状を学習したほか、フィールドワークでは魚が生まれ育つ藻場を観察。また、価値が付かず市場に出回らない「未利用魚」のクロダイ（チヌ）を使ってレストランで提供できるメニュー開発などにも取り組みました。隊員たちは3日間の学習を通じて学んだことや感じたことをオリジナルの「ギョギョっと新聞」に仕上げました。今回のテーマは「瀬戸内海の環境と漁獲量の変化」と「藻場の大調査」。9月19日付の紙面では「チヌを使ったメニュー開発」を紹介します。



隊員らは、海に潜り藻場に生えているアマモなどを調査した

かがわ離島レンジャー 未来の海を守れ！



新門

日本財団
THE NIPPON FOUNDATION
**海と日本
PROJECT**

藻場に生息している海の生物をじっくり観察する
離島レンジャー隊員ら

実際に観察してみよう

小さな卵や貝 見つけたよ

香川大学創造工学部の末永慶寛学部長による藻場の役割を学ぶ講座を終えた離島レンジャー一行は、近くの海岸に移動してフィールドワークを実施。実際に藻場の様子やそこに生息する海の生き物の種類などを確認しました。

隊員たちは海に入り、アマモが生えている藻場に着くと網で海草の近くをすくい始めました。網の中にはヨウジウオやティッポウエビなどが入っていて、さっそく水槽に移し替えて細部までじっくり観察。アマモの切れ端に付いた生き物の小さな卵や貝を間近で見たり触ったりしたほか、磯では多くの種類の貝やカニを採集することができました。

フィールドワークを終えた隊員たちからは「アマモがいろんな生き物のすみかになっている様子を実際に見ることができてよかった」「注意して見ると、いつも気付かないような小さな生き物を見つけることができた」と感心していました。



ブランブランジャンプ

【運動遊びの準備】
あらかじめ地面や床に衝撃を吸収するためのマットや敷布団などを引いておきましょう。

【運動遊びの方法】
はじめに、マットや座布団の上で両膝を立ててスタンバイします。



瞬発力や巧緻性高める

次に「ブランブラン」と両腕を大きく前後に振り、徐々に反動を大きくつけていきます=1=。タイミングを計り、両腕を後ろから前に勢いよく振り上げて体を真上に引き上げます=2=。体が浮いた瞬間にすばやく両膝を前に出し、着地の態勢に入ります=3=。そのままバランスを崩さずに着地できればチャレンジ成功です=4=。

【上達のポイント】
腕を前後に振るとき、腰や膝も一緒に曲げ伸ばして反動をしっかりとつけることで膝を前に出しやすくな



物が大きくなるには藻場が驚きの声を上げ、海の生き物が大きくなるには藻場が欠かせないことを学びました。

【上達のポイント】
腕を前後に振るとき、腰や膝も一緒に曲げ伸ばして反動をしっかりとつけることで膝を前に出しやすくな



ります。
【注意点】

コンクリートなどの硬い地面の上で何度もジャンプを行うと、膝を痛める可能性があるので注意してください。腰や膝、足首などに痛みがあったり、運動遊びの最中に違和感を感じたりした場合はやめておきましょう。

(たけのこ体育教室・安部武矩代)



運動遊びは十分なスペースがあり、車や人が通らない安全な場所で行うようにしてください。